

かけはし



福島市立平田小学校 学校だより No.20

自分で考え 力を合わせ
夢に向かって 最後まであけましておめでとうございます!
～2021年 さらなる飛躍を目指して～

皆さま、あけましておめでとうございます。

新年早々、福島市新型コロナ警報の継続により1月8日（金）が臨時休業となり、ご心配をおかけいたしました。12日（火）に全校児童45名全員の出席のもと始業式を実施し、2021年をスタートさせることができました。これもひとえにコロナ禍の冬季休業中において、子どもたちの健康管理と事故防止にご留意いただいた保護者の皆さまのおかげと感謝申し上げます。3学期は授業日数が49日と短い学期ですが、1年間のまとめと進級・進学に向けて準備を進めるとも大切な学期になります。1日1日を大切に過ごすことにより、児童一人ひとりが大きく成長し、飛躍する学期にしていきたいと思っております。今年も保護者の皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



今年「丑年」



丑（うし）は十二支の一つ。2番目に数えられ、西暦を12で割って5余る年が「丑年」となります。「丑」は中国で生まれた漢字で、手で何かをつかもうとする様を表す象形文字で「からむ」という意味があり、芽が種子の中で伸びることができない状態を表しているそうです。これを後に覚えやすくするために動物の「牛」があてはめられました。

丑（牛）が十二支の2番目になった理由として有名な昔話があります。

昔々、ある暮れのこと、神様が動物たちに次のようなおふれを出しました。「元日の朝、私のところに出かけてきなさい。最初に到着したものから12番目までを1年交代でその年の大将にしてあげよう。」動物たちは我こそが一番になるぞとはりきっていました。元日になり、足の遅い牛が誰よりも早く夜明け前に出発しました。すると、牛小屋の天井でこれを見ていたネズミが、こっそり牛の背中に飛び乗りました。そんなこととは知らない牛が神様の家に行ってみると、まだ誰も来ておらず門も閉まったまま。我こそが一番だと牛は喜び、門が開くのを今か今かと待っていました。やがて朝が来て門が開いたとたん、牛の背中からネズミ（子）がびょーんと飛び降りて先にゴールし、牛は2番目になったそうです。ただ、誰よりも早く準備と足を進めた牛の行動は周囲から「まじめで立派」と評価され、牛が大将となる丑年は「蒔いた種が芽吹く年」といわれるようになりました。

牛は古くから農作業や物の運搬など人間の生活に欠かせない動物です。その勤勉な働きぶりから、丑年は「我慢づよい努力を積み重ねることにより、今後発展する前触れとなる」年になるともいわれています。過去の丑年には人類初の宇宙飛行(1961)や、日本では自民党から民主党への政権交代(2009)、ハイブリッド車のデビュー(1997)、コンビニエンスストア1号店出店(1973)など革新的な出来事もありました。

今年（丑年）は昨年（子年）から続く新型コロナウイルスとの闘いにおいて人間が勝利し、その過程で様々なイノベーションが生まれ、最終的には希望に満ちた年になることを心から願っています。

【お知らせ】 1月末に予定していたJAふくしま未来の職員による3～6年生の食育体験活動はコロナ感染拡大防止のため、中止となりました。ご了承願います。